日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

手をつなぐ温もり-地域とともに-

あおえネットワーク

8
2024

岡山赤十字病院　患者サポートセンター

講演会のご案内

※詳細は同封のポスターをご参照ください
※会場参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします

日時・会場	名　　称	演題・演者等
令和6年9月26日（木） 18：00～20：30 山陽新聞社 さん太ホール Webﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ開催	第12回 世界アルツハイマーデー 記念講演会 in岡山 ＊岡山市認知症疾患医療センター主催	テーマ：『認知症、最近の話題』 講演1【新しいアルツハイマー病の治療　レカネマブ】 岡山市認知症疾患医療センター センター長　中島 誠 （岡山赤十字病院 精神神経科部長） 講演2【認知症基本法と成年後見制度について】 佐々木正有法律事務所　佐々木 正有 氏 講演3【摂食えん下障害を来した認知症患者へどのようにアプローチするか～胃ろうの位置づけ～】 岡山協立病院 消化器内科　板野 靖雄 氏 講演4【認知症の人の一人歩き…いわゆる徘徊には意味がある】 慈圭病院 副院長　石津 秀樹 氏 ＊当院は岡山市より「岡山市認知症疾患医療センター」の運営を委託されています

緩和ケア病棟10周年

「地域がん診療連携拠点病院として、患者さんを最初から最後まできちんと診るためには緩和ケア病棟が必要です。」との初代緩和ケア科部長でもある故渡辺洋一先生のお考えにより、旧第2駐車場の敷地に緩和ケア病棟が建てられて10年が経ちました。

急性期病院の緩和ケア病棟の役割として考えたことは、終末期がん患者さんの「終の棲家」であることの他に、激烈な疼痛などの苦痛症状に迅速に対応する「痛みのICU」であり、また「第二の患者」であるご家族のサポート（レスパイト入院など）も重要で、そのためには在院日数を短くして「入院待ち」をできるだけ生じさせない努力が必要でした。

同時に、患者さんが「どこでどのように過ごしたいのか」という希望に十分配慮することが大切であると考えており、それまでの治療を担当された主治医との関係性を終わらせたくない、住み慣れた自宅での生活を何とか続けたい、といった願いをかなえるために、主科や一般病棟のご配慮、MSWなどの患者支援スタッフのご協力をいただくことで、適切な入院患者さんを受け入れることが可能であったように感じています。

コロナ禍で、稼働病床が20床から12床へ削減となり、病棟の生命線である「ほぼ面会制限なし」が真逆の状況となりましたが、平屋建ての利点を生かした「窓越し面会」を考案したり、需要の増加した在宅医療との連携を意識した対応を心がけるなど、自らの「存在理由」を見つめ直しながら努力奮闘した看護スタッフの活躍を通して、あらためて「ケアする」（相手を想う、気にかける）ことの重要性を私自身理解することができたように思います。

現在、あらゆる医療現場における緩和ケアの必要性が認識されるようになっていますが、当院のすべての部署が緩和ケアを実践するに当たっての中心地としての役割を担いながら、これからも患者さんやご家族を支える場所であり続けられることを願っています。

緩和ケア科　喜多嶋　拓士

紹介患者予約申込書の内容変更について

新規エコー検査の追加に伴い内容を変更しました。　＊新様式を同封しておりますので、よろしくお願いいたします。

院内Topics ニュース&報告

〇医師の新任（8月1日付）

医師氏名	カナ	職名	所属・専門分野	卒年	前勤務地・備考
久村　正樹	ﾋｻﾑﾗ ﾏｻｷ	第二救急科部長	救急科	H9	岡山大学病院

第89回岡山赤十字病院病診連携研修会

5月8日に第89回岡山赤十字病院病診連携研修会が開催されました。今回、辻医院の辻光明先生と共に世話人を担当させていただきました。テーマは「この皮膚症状を見逃すな！」で、私が「抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎との闘い」、皮膚科部長の横山恵美先生が、「赤ら顔をみたときに」と題して講演を行いました。

前半の「抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎」は、昨年末に著明な演歌歌手が急逝されたこともあり、患者さんから自分もそうなのかと聞かれることが多い疾患です（この病気の方はそんな質問はされませんので、答えはNoですが）。年間1-2例と多くはないものの、当科の扱う膠原病の中で最も予後の悪い疾患の一つです。救命出来ず悔しい思いをした経験も多く、今回はそのような症例も交え、現在進行中の新規治療法の臨床研究（全国の大学病院や基幹病院に参加していただき当科主幹で行っている）も紹介させて頂きました。

横山先生のご講演は「赤ら顔」というありそうなシチュエーションを切り口に、中心的疾患である酒皶（しゅさ）や鑑別疾患である皮膚炎、ざ瘡、薬疹、感染症、膠原病、皮膚腫瘍など、多くの経験症例の診断や治療について紹介されました。豊富な症例写真の提示があり、非常に分かりやすい説明もあって、大変印象に残るものでした。一口に「赤ら顔」と言ってもその鑑別が多岐に渡る事、そして症状を見逃さず、どのような時に専門医に紹介すべきなのかというメッセージが聴講の先生方に明確に伝わったようでした。

当日は会場で26名、オンラインで61名と合計87名の参加がありました。途中、オンライン配信でトラブルがあったとの事で少し残念でしたが、終了後のアンケートでは良い評価を頂く事ができ、胸をなで下ろしました。

膠原病・リウマチ内科　　小山　芳伸

第12回おかやまDMAT隊員養成研修

2024年6月12日～13日の2日間、岡山済生会総合病院にて、第12回おかやまDMAT隊員養成研修が行われました。DMATとは「Disaster Medical Assistant Team」の頭文字をとったもので、大規模災害や多くの傷病者が発生した事故現場などで医療行為を行う医療チームのことです。内容は盛りだくさんで、大変充実した研修でした。トリアージや診療のシミュレーションだけでなく、実際に災害が起きた想定で、組織の立ち上げから活動内容の検討・運営までを模擬的に体験していく研修もあり、難しくも、みんなで協力しながら乗り切っていきました。非常に貴重な経験で、この経験を実際の活動に活かせるよう精進して参ります。お忙しい中にもかかわらず、大変多くの方々がこの研修に携わってくださっており、おかげさまで大変充実した研修を送れました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。また会場を貸してくださった岡山済生会総合病院様もありがとうございました。

SR5　濵田　大我

ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として地域医療連携課までお寄せください。

TEL／086-235-8555　FAX／086-235-8556　　e-mail／renkei@okayama-med.jrc.or.jp